

JwIMA 通信

Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-14

東京文具工業健保会館 1F

電話 03(5829)3848

FAX 03(5829)3852

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

新 年 の ご 挨 捶

日本筆記具工業会 会長 小川 晃弘



令和8年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、日頃から我が国の筆記具工業の発展のためにご尽力を賜っております会員各社様、および本工業会にご支援を頂いています業界団体様、ならびに各委員会・部会運営にご協力いただいている各社皆様に厚く御礼申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、筆記具の市場動向に関しまして当工業会が集計している2025年第3四半期までの筆記具統計によりますと、出荷数量は軒並み前年割れとなっていますが、一方で出荷金額は油性ボールペン、シャープペンシル、鉛筆などは前年比横ばいか微減となっており、筆記具の販売単価が上昇しているものと考えられます。

これは我が国最大の強みである高度な筆記具の開発力を会員各社様が存分に發揮し、高品質・高付加価値の商品を世の中に送り出した結果の表れであり、この開発力こそが我が国筆記具業界の存在意義を示すものであり、今後の更なる筆記具市場拡大の原動力となるものです。

昨年の国内外政治経済情勢は、米国の関税政策を巡る混乱、国際的な分断、インフレ圧力の継続、また人手不足といった問題に直面し、厳しい経営環境が継続しました。デジタル化の進展や少子化の進行に加えこうした政治経済の不確実性により、筆記具のサプライチェーンや市場動向も大きな影響を受けました。

一方で教育のデジタル化一辺倒による学力低下への懸念などから筆記が脚光を浴びつつあり、デジタル化と対照した「書く」という行為がもたらす「脳の活性化」「思考の整理」「創造性の発揮」「コミュニケーション多様化」などの効能が唱えられ、その手段としての筆記具の存在価値は決して失われることはありません。

今年で当工業会は創立25周年、節目の年を迎えるにあたり当工業会の目的である「日本の筆記具業界の活性化と発展、及び国民生活の向上に寄与する」ことに堅忍不拔の精神で取り組み、「書く」ことの効能を訴えながら我が国強みである筆記具開発を推し進め、そして筆記具をとおして社会生活を豊かにするという使命を全うしてまいります。

より魅力的な筆記具を世の中にどんどん送り出し全世界で筆記具需要が拡大することで、文具業界および会員各社様が一層の発展を遂げることを心から祈念しつつ、本年も日本筆記具工業会に一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

講演会・年末懇親会 盛大に開催(12/8)

ヴァイオリニスト 石上 真由子氏 の演奏に魅せられて！



本年が第23回となります年末の講演会・懇親会が2025年12月8日（月曜日）に上野精養軒で開催されました。お忙しい中、69名の多くの方にお集まりいただき、楽しいひと時を過ごしました。第1部の講演会では、本年趣向を変え、ヴァイオリニストの石上真由子氏にご登壇をいただきました。石上氏は、5歳からヴァイオリンを始め、8歳の時にはローマ国際音楽祭に小差隊をされるほどで、その後も国内外のコンクールで多数の優勝、受賞をされています。また、京都府立医科大学を卒業し、医師免許を取得されている異色の経歴のヴァイオリニストとしても著名な方です。

その石上さんに「クラシックやヴァイオリンにまつわる楽しいお話と演奏のタベ～ヴァイオリンとピアノのアンサンブル」をテーマとして、演奏をしていただきました。第2部の年末懇親会は、ピュッフェ形式での開催でしたので、多数の方と懇親することができ皆さん喜んでおられました。

懇親会の冒頭、小川晃弘会長より次の様なご挨拶がありました。
「経済環境はコロナ禍の影響や国際情勢の変化により厳しい状況が続いています。JWIMAの統計資料によると、数量ベースではマイナスとなりましたが、金額ベースでは前年並み。これは付加価値の高い新製品の上市により単価が上がったため体と思われます。このことがまさに不況脱却的回答ではないか。来年JWIMAは設立25年を迎えます。数量、金額ともプラスとなるように、技術力を生かしユーザーの欲する製品をどんどん出していただくことをお願いします」と会員みなさんの士気を挙げ、万雷の拍手を浴びていました。

続いて、経済産業省松本麻子課長補佐の来賓ご挨拶。その後、宰務伸也副会長の発声で乾杯を行い、歓談に移りました。しばし歓談を楽しんだ後、西村彦四郎副会長の閉会の挨拶で懇親会を終了いたしました。

＜石上真由子氏 講演/演奏＞

司会から石上さんが紹介されると、ピアノ奏者の方と共に入場されます。まずは、ヴァイオリン初級者編で、石上さんがそのパート名称についてクイズ形式で教えてくださいました。本体に4本張られているのが「弦」。素材には、羊の腸が使われるそうです。胴体の両側にあいている穴が「f字孔」振動を外に響かせるもの。そして、外からは見えないのだが、中に「魂柱

（こんちゅう）」と呼ばれる棒が入っており、このパートがとても重要で、これが無いと、どんなに一生懸命に弾いても音が響かないそうです。（ちなみに「魂柱」と訳したのは、夏目漱石だとか）。そして、この弦を弾いて音を出すものが、「弓」。弓に張ってあるのは、「馬の尻尾の毛」（ちなみに、オスの毛だけが使用されている）。また、ヴァイオリンを弾くテクニックでは、この弓を使わずに指で弦をはじく「ピチカート」という演奏方法があるそうです。そんな、いろはから教えていただき、だんだん興味が湧いてきました。そして、実際に演奏をしていただきます。

当日のセットリストは、以下となっております。

① 愛の喜び 「クライスラー」

このウィーン出身のクライスラーという作曲家は父親が医師で、その後ヴァイオリン演奏を始め10歳でウィーン高等音楽学校を首席卒業した人。石上さんは自分と生い立ちが似ているクライスラーに親近感を覚え、好きな作曲家だそうです。「愛の喜びは」ヴァイオリンとピアノの演奏のために作曲された、喜びを表した晴れやかな曲となっています。



② 愛の悲しみ 「クライスラー」

次に、同じクライスラーが作曲した「愛の悲しみ」。こちらは、「愛の喜び」と対で演奏されることが多い曲らしく、愛と悲しみの感情が強調されており、ヴァイオリンの音色が先ほどとずいぶん印象が変わります。ヴァイオリンの演奏は「喜び」にも、「悲しみ」にも聞こえるんですね。

③ アイネクライネナハトムジーク（小さな夜の音楽）「モーツアルト」。

モーツアルトの曲の中でも非常に有名な曲。通常は、弦楽四重奏または五重奏で演奏される曲ですが、先ほど紹介されたいろいろな演奏方法、テクニックを駆使してヴァイオリン1本で広がりを感じる演奏をしていただいた。

④ バンジョーとヴァイオリン 「ウィリアム・クロール」

今度はヨーロッパからアメリカに移り、クロードが作曲した曲。既成概念のクラシックのヴァイオリンの曲とは違い、カントリーの香り漂う、アメリカの雰囲気を存分に感じられる一曲です。こんな楽しいヴァイオリン演奏曲もあるんですね。

⑤ スペイン戯曲：はかなき人生 「マヌエル・デ・パヤ」

パヤが作曲した、全2幕のオペラの中の「舞曲」。この曲に合わせて、皆が舞い踊る姿が浮かんできました。

⑥ ヴァイオリンソナタ2番 「幸田延」（幸田露伴の妹）

日本の曲です。幸田露伴の妹「延（のぶ）」の作曲。クラシック部門で日本初の作曲家。延の門下生には、山田耕作、滝廉太郎。ソナタ2番。ちなみに、よく耳にするこの「ソナタ」とは、クラシック音楽における楽曲の構成方法で、主に「提示部」、「展開部」、「再現部」から成り立っているものです。西洋形式の曲ですが、やはりどこか日本的な情緒を感じる曲になっています。

⑦ ピアノとヴァイオリンのためのソナタ5番 春 「ベートーベン」

ベートーベンというと、肖像画の印象や、「運命」の曲からどこか怖い人のようなイメージもありますが、こんな明るい曲調で、わくわくするような曲もあると紹介していただきました。「春」というタイトルも、後からこの曲を聴いた人が、感じる雰囲気で付けたもの。当時は、ピアノが主で、ヴァイオリンは脇役だったそうです。

⑧ ワルツ（映画「他人の顔」から） 「武満徹」（サプライズの追加演奏曲！）

予定の演奏時間を終了していたのですが、皆さんからの温かい大きな拍手を受けて、もう1曲の追加演奏をしていただけたことに！8月に発売された石上さんのCDタイトルにもなっている映画「他人の顔」の主題歌「ワルツ」。

ヴァイオリンとは？の説明から始まり、演奏曲のエピソードを教えていただいたり、幅広い楽曲の魅力が満載で、とても楽しいお話を演奏でした。ありがとうございました！

（下記の写真は、その後行われた年末懇親会の様子。石上さんも参加され、CDの即売会もSOLD OUTになりました）



CDには、その場でサインも

＜告知＞ 石上真由子氏 公演予定

日時：2026年3月6日（金曜日）19:00- 場所：浜離宮朝日ホール

チケット好評発売中です。

会員研修会「生成 AI 時代のデジタル活用術」と 「文具の魅力と可能性」のテーマで開催(11/7)



本工業会では、会員の皆様への情報提供の一環として、毎年各分野のスペシャリストに講師をお願いし、研修会を開催いたしております。本年は、2025年11月7日（金曜）東京文具共和会館（浅草橋）に、IT分野と実際の仕事の現場両方に精通したスペシャリストの竹内幸次氏と、文具プランナーの福島楳子氏をお招きし開催しました。

最初に開催者である工業会総務委員長の高塚誠一氏により「本日は、デジタル技術をどのようにマーケティングに活用していくのか、また文具の魅力と可能性について、ユーザー目線で話ををしていただく。今回の2部のテーマの研修から是非何かヒントを得て、個人や職場で活かしていただけたらありがたく思います」という挨拶がありました。テーマの違うそれぞれの講義から、ご参加いただいた皆様も、今後の活動に結び付くヒントになったのではないかと思います。

か、また文具の魅力と可能性について、ユーザー目線で話ををしていただく。今回の2部のテーマの研修から是非何かヒントを得て、個人や職場で活かしていただけたらありがたく思います」という挨拶がありました。テーマの違うそれぞれの講義から、ご参加いただいた皆様も、今後の活動に結び付くヒントになったのではないかと思います。

＜開催概要＞

講師：中小企業診断士 株式会社スプラム 代表取締役 竹内幸次氏

第1部 13:30～15:00

生成 AI 時代のデジタル活用術～SEO から AEO 時代へに変化に乗り遅れるな～

＜講義内容＞

ますます拡大する市場活動である WEB マーケティングの市場調査とアプローチを有効に行うため、特に必要性の高まる SEO (Search Engine Optimization : 検索エンジン最適化) が中心になっていました。ですが、更に新たな AEO (Answer Engine Optimization = 応答エンジン最適化) 時代に変化してきています。生成 AI が普及し、世界のざっと8割が ChatGPT を使っている中で、その回答に自社名や自社の公式サイトの URL が記載されることは自社プランディングの意味でも大きな経営価値があります。具体的な事例を通じて、その手法を紹介していただきました。多くのツールの紹介により、会社に帰ってからチームでも有できる内容の濃いものでした。



講師：文具プランナー 福島楳子氏

第2部 15:20～16:50

文具の魅力と可能性～実体験から語る文具の本質～

＜講義内容＞

子供のころから文具が好きで、自分の力を引き出したり、やる気をアップさせる大切な道具だと思っています。現在のツールはどんどんデジタル化しているが、ここへきて、文具というアナログツールの魅力について改めて気づく人が増えています。例えば、チャット GPT の生みの親「サム・アルトマン」は、リングノートとボールペンを肌身離さず愛用していますし、MLB の山本投手は分厚いノート、大谷選手が高校時代に書いた目標達成のためのマンダラチャートも有名です。これまで文具は必要で使っていたのですが、これからは使いたいから使う時代に。近年のトレンドは、世界への進出、価値ある高価格帯へ、デザインの多様化、推し活や趣味との相性、業界内の女性の活躍など。私の夢は文具を使い人たちが、ぴったりの文具に出会えるような場を作ること、と語ってくれました。

＜懇親会＞17:00-18:30 立食にて。20名が参加。福島楳子氏にもご参加いただき、会員との交流や会員同士のコミュニケーションが高まる懇親会となりました。

第19回懇親ゴルフコンペ開催（10/28）

名門「我孫子ゴルフ倶楽部」の難コースにチャレンジ



本工業会では年間行事の一環として会員間の交流を図るため毎年懇親ゴルフコンペを開催しております。本年も、3年連続で、名門我孫子ゴルフ倶楽部をお借りし、4組16人ダブルペリアで回りました。当日はまたとない爽やかな秋晴れで、コースも大変すばらしく整備されており、とても気持ちよくプレイを楽しめました。しかし、どのホールもグリーンはいくつもの額の高いバンカーに囲まれ、そのグリー

ンもとても早いため、攻略は簡単ではありません。3年越しのリベンジという気持ちで参加されていた方もいらっしゃいましたが、それをまた名門コースならではの楽しみのようです。そんな中、優勝はトンボ鉛筆の小川晃弘会長でした。スコアはネット73.4、グロス83の成績です。（ベスグロ、ニアピンも獲得）賞金と足立音衛門の「栗のテリーヌ」の副賞が授与されました。次回は第20回の記念大会となりますので、ぜひ皆様もご参加ください。



ISO/TC10/WG18国際会議（中国 四川省 成都開催）

2025年5月14～20日に参加



JWIMA技術国際委員会内の国際標準提案事業委員会では、経済産業省の委託事業として「国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業」の活動を行っています。

ISO/TC10/WG18とは、筆記具関連の技術的諸問題を検討するプロジェクトチームです。その第23回会議が本年中国成都で開催されJWIMAから、3名がリアル参加しました。ISOの新規格として日本から提案しており4/28にISO3135「公文書用マーキングペン」として発行された

（↑成都開催のISO国際会議受付の様子）制定の経緯と規格の内容を説明しました。今後、新しいテーマとして、「ボールペンの粘度の定義」を審議していくことを説明。このWG18の議長国は日本で、今後も日本の筆記具事業の輸出体制を守るためにISO規格の維持と、新規提案に関する標準化活動を行ってまいります。会議に参加した3名の旅費も、会議内容の報告書が認められ、全額が国から支弁されております。

<成都一口メモ>開催地「成都」には、「パンダ基地」という施設があり、240頭ものパンダが飼育されています。休日に訪れた参加者は、「見飽きるほどだった」という貴重な体験もできたそうです。



川口市立科学館 特別展 「文房具」（6/7～7/13）

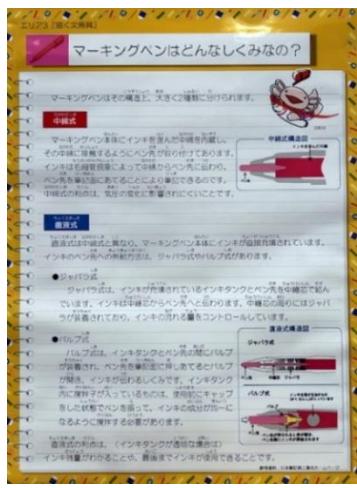
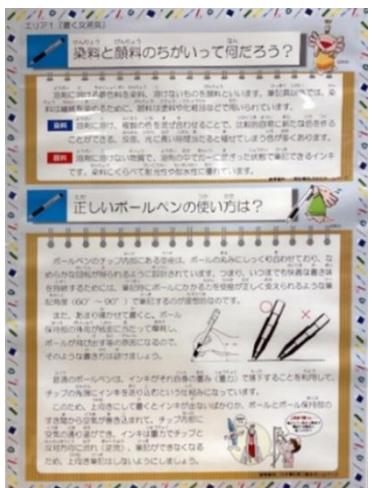
JWIMA HPの「お役立ち情報」をパネル化して、展示会を実施

JWIMA事務局には、テレビ局や学生、団体などから各種の問い合わせがございます。クイズの問題にしたい。答えの解説をして欲しい。古い鉛筆の画像を使いたいなど。基本HPに掲載の記事や、画像が皆様のお役に立つであれば、是非お使いください！とオープンにご利用いただいております。そんな中、「文房具の展示会を開催したいのですが、HPのお役立ち情報の内容を、パネルにして使用してもいいでしょうか？」という問い合わせが、川口市立科学館さんからありました。



もちろんOKですと回答していますが、どんな展示をされているのか気になり参考にお邪魔しました。この展示企画をされた、学芸員さんがいらっしゃったのでお話をうかがうと、期間中の来館者は1万2千人を超えて、過去最高を記録したそうです。（文具というテーマはやはり、親しみやすいようで）製品毎の説明にはJWIMAHPから抜粋のパネルを設置し、その下に実際の製品を置いて、書いてもらう体験ができるようになっています。JWIMAの資料はメーカー色が無く、一般的な製品説明のため使い易いのだとおっしゃっていました。

皆様の周りでも、このような展示会の企画のお話があるようでしたら、是非JWIMAのHPをご活用いただきたいと思いました。そのためには、もっとHPの項目が皆さんの検索にヒットしやすく、内容も整備して充実させていかなければならぬと、今後の課題も見つかった展示会訪問でした。



新規入会社、KAYOU株式会社様のご紹介

2025年11月1日入会



2025年11月1日付けで、筆記具工業会に入会した、新規会員さんをご紹介させていただきます。

名称：KAYOU（カーユ）株式会社 代表者名：代表取締役 李 奇斌

URL：<https://www.kayou110.co.jp> 取扱品目：シャープペンシル、ボールペン

*KAYOUさんより、会員の皆様に下記ご挨拶をいただいております。

「はじましてKAYOU株式会社です。2019年に設立し2022年に文具事業部を開始しました。私たちの想いは本物の価値を知り、心を豊かにするブランドを目指しモノ創りに励んでおります。これからはどうぞ宜しくお願い致します。」

サクラクレパス塩井恵子氏に、JWIMAより感謝状の贈呈

2025年11月21日



11月21日に開催された製品安全小委員会の前委員長で、今回のオブザーバー参加を最後に、JWIMA活動から退任される、(株)サクラクレパスの塩井恵子氏に、感謝状を贈呈させていただきました。塩井氏はJWIMA設立時より、JISやISOなどの標準化に携わっていただいており、市場が大きくなったゲルインクボールペンや一般用シャープペンシルのISO化を日本から提案し、その制定にご尽力されました。2009年～2024年までISO WG18の議長を務められ、現在ISO活動で日本がイニシアチブを握る礎を築かれています。また、JWIMA設立時から製品安全小委員会委員長で、米国や欧州の技術会議メンバーとして最新化学物質規制情報等の共有もしていただいておりました。長い間JWIMAの発展に多大な貢献をいただいた功績に、御礼申し上げます。

会員さん探訪記（Vol.2）

2025年8月28日（金曜） 株式会社呉竹様



奈良県奈良市の株式会社呉竹様を訪問させていただきました。JR奈良駅から車で15分ほどのところに、ゆったりとした敷地の本社があり、創業120年以上になる墨・書道用具を主力とされている会社です。入口にあるショーケースには、奈良県の伝統産業で創業時からの取扱製品の「墨」や、筆ペンの技術を生かした「アイライナー」まで展示されています。伝統を大切にしながら、新しい挑戦をし続けている会社なのです。習字の授業や書道で当たり前

のように使われている「墨汁」は、「墨をする時間を減らし、もっと書く練習に集中したい」という現場の声から、呉竹さんが開発したものです。そして、呉竹さんと言えばで、想起する「筆ペン」も筆の纖細なタッチを手軽に表現できる、画期的な筆記具です。同社製品のユーザーは、90%が女性なので、企画部門には多くの女性が占め、管理職もほぼ半数が女性と活躍をされています。「書く」

「描く」を創造し、海外への進出も目指しています。西洋の文字表現技法で、「カリグラフィー」というのが根付いており、日本の書道を「東洋のカリグラフィー」として広めたいと語るのは、取材当日に代表取締役社長に就任された西村真由美氏。「アート&クラフトカンパニー」を標榜する中、ますますリーダーシップを發揮されると感じました。JWIMAでも、アナログな筆記具の良さを発信していると思っていますが、日本最古の筆記具でもある、「墨」、「筆」そして「書道」のお話をうかがい、その原点に触れた気がしました！貴重なお話、ありがとうございました。

（次回はどちらへ。「探訪記」は続く）



2025年 第24回通常総会が開催されました

（2025年6月4日（水曜） 上野精養軒にて）

2025年6月4日に行われた第24回通常総会の模様です。役員任期満了による改選により、西村彦四郎会長が退任され、小川晃弘会長が選任されました。懇親会は、立食形式で行ない、会員の皆さん相互の交流を深めました。



2026年 第25回通常総会の日程が決定

（2026年6月4日（木曜） 上野精養軒にて）

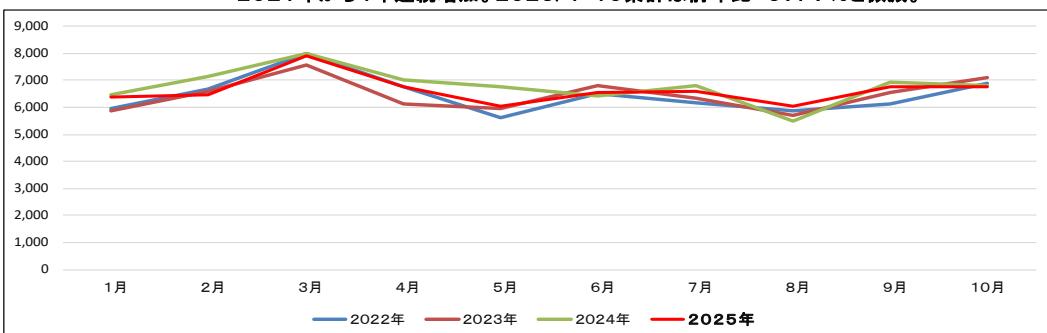
第25回通常総会は2026年6月4日（木曜）の17時から上野精養軒で行われることが決定しました。来年も、充実した活動を行いたいと考えております。皆さま奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします

2022～2025年 月別販売金額比較（1月～10月）

機器・生活用品統計(旧雑貨統計)より		※国内向け販売と輸出向け販売を含む。										単位:百万円
品種・年／月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
ボールペン	2022年	5,941	6,697	8,008	6,746	5,602	6,526	6,150	5,876	6,110	6,873	64,529
	2023年	5,879	6,600	7,564	6,117	5,965	6,786	6,351	5,720	6,554	7,104	64,640
	2024年	6,443	7,135	8,009	7,027	6,755	6,414	6,818	5,480	6,911	6,807	67,799
	2025年	6,368	6,464	7,896	6,762	6,043	6,535	6,591	6,031	6,748	6,770	66,208
マーキングペン	2022年	3,378	3,651	4,596	3,581	3,334	3,794	3,458	3,660	3,660	3,873	36,985
	2023年	3,447	3,725	4,196	3,509	3,421	3,800	3,382	3,791	3,926	4,095	37,292
	2024年	3,714	4,113	4,596	4,087	3,927	4,158	4,274	3,864	4,300	4,616	41,649
	2025年	3,729	3,972	4,088	3,947	3,224	3,427	3,357	3,069	3,737	3,549	36,099
シャーブペンシル	2022年	1,322	1,551	1,910	1,137	971	1,239	1,174	1,087	1,153	1,338	12,882
	2023年	1,541	1,707	2,144	1,346	1,473	1,336	1,328	1,238	1,347	1,485	14,945
	2024年	1,600	1,992	2,047	1,706	1,410	1,526	1,610	1,277	1,441	1,605	16,214
	2025年	1,672	2,049	2,162	1,446	1,275	1,419	1,554	1,298	1,537	1,810	16,222

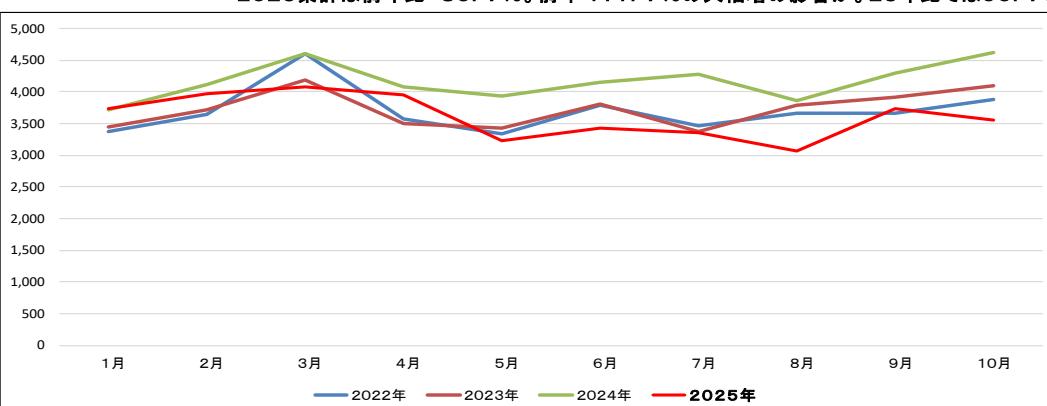
(1) ボールペン

2021年から4年連続増加。2025/1～10累計は前年比 97.7%と微減。



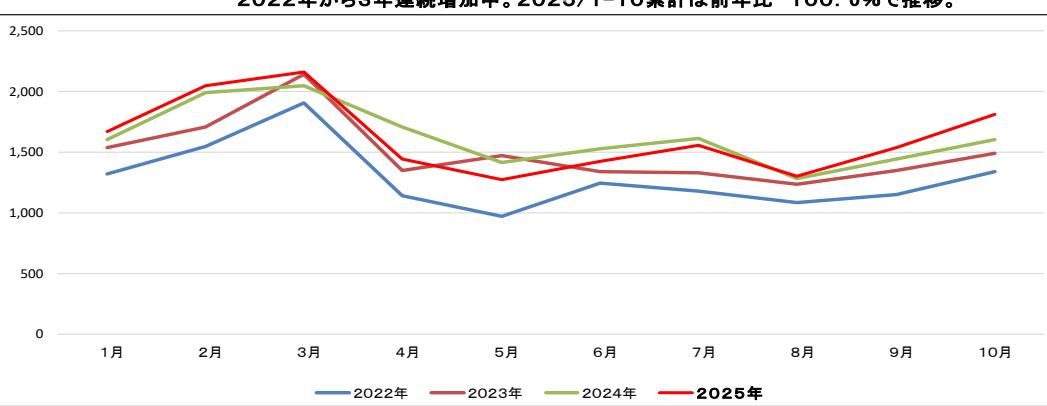
(2) マーキングペン

2025累計は前年比 86.7%。前年 111.7%の大幅増の影響か。23年比では96.7%



(3) シャーブペンシル

2022年から3年連続増加中。2025/1～10累計は前年比 100.0%で推移。



以上

<編集後記> 日本筆記具工業会事務局の、服部眞一です。

2025年1月より、専務理事事務局長として1年間 JWIMA 行事などの業務を務めさせていただきました。ご協力誠にありがとうございました。本年は JWIMA 創立25周年であり、皆様と共に工業会の活動を益々盛り立てまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。(了)

